

(4) 身近な鳥類の捕獲方法

呼び名の聴き取りの中で併せて採録した、身近な鳥類の捕獲方法は次のとおりである。

① 主としてスズメの捕獲

- ・ ザルを使った捕獲方法で、ザルを小枝等で立てかけその下に糲を撒く。離れた所で隠れて見ていて、スズメが食べに来たら小枝等に括った紐を引き、それを倒し捕まえる。集落により「スズメこぼち」と呼ばれた。
- ・ 古い俵を使った捕獲方法で、俵の入り口を縄で閉じれるように細工をし、入り口の広く開け、中に糲を少し撒く。隠れて見ていて、スズメが食べに入ったところを縄を引き、入り口を閉ざし捕える。集落により「たわらこぼち」と呼ばれた。
- ・ 小屋の中に糠を撒き、スズメが入ってきたら、入口の戸を閉めて窓の所（＝光がある場所に集まる）で捕まえる。
- ・ 屋根瓦下に作られたスズメの巣に手を入れて捕まえる。

② 主としてメジロ等の捕獲

- ・ モモチ又はモチと呼ばれた鳥もちを使った捕獲方法で、モチノキの皮を剥ぎ、叩いて、粘着性を強くしたものを山林の中の木枝や人為的に作った止まり木に巻きつけ、メジロ等が止まり動けなくなったところを捕まえる。

よく近寄ってくるように近くでミカンを刺したり、捕獲済みの鳥を鳴かせたりする場合があったという。

③ 主としてホオジロの捕獲

- ・ 地面に直径15cm程度の小さな穴を掘り、その上に細い（割り）竹を編んだ簾（30cm四方程度）を2か所で小枝等の二股で立てかけ、中央に稲穂を吊るし、鳥がそれをつつけば、簾が倒れ、穴と簾の間に閉じ込められるという仕掛けのもの（離れた所で隠れて見ていて紐を引き、簾を倒す場合もあった）。穴は深くなく、簾に軽く押さえつけられる程度がよい。

特に、周囲には鳥を寄せるための藁を撒くとともに、エサが不足する冬の雪降りの日などに仕掛けるとよく捕れたという。

なお、地域によっては竹を編んだ簾の替りに、イワシの木箱を使う場合がみられた。

集落により「こぼち」、「こびち」、「こぶち」、「ホジロこぼち」等と呼ばれた。

④ その他

- ・ 親鳥が降りる所を探し、巣を見つけて、モズの雛捕りをした。（津賀）
- ・ 麦畑にヒバリの巣を取りに行った。（深溝）
- ・ 木に登り、カラスやトンビの卵を取った。（住吉他）
- ・ 道路下の土水路にミミズクがいて、捕りに入った。（住吉）
- ・ 池の岸のところにカワセミの巣があり、手を入れて捕った。（住吉）